

造形作家 / 玉田多紀 Artist / Taki Tamada

ダンボール物語

全てがダンボールからできている。
総勢130点を超える生き物たちが、尼崎へやってくる！

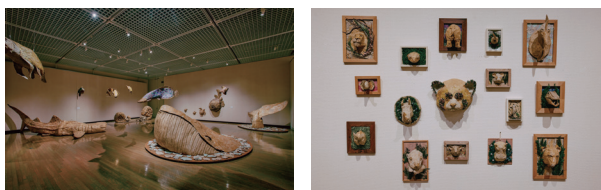


玉田多紀 (たまたき)

1983年 兵庫県生まれ
2007年 多摩美術大学造形表現学部造形学科卒業

主な展覧会

- 2016年 造形作家玉田多紀とおかざきの子どもたち展 (おかざき世界子ども美術博物館)
- 2018年 廃材アート展 (浜田市世界子ども美術館)
- 2019年 Bless You (ARTS&CRAFTS STUDIO Hong Kong)
- 2022年 呼吸するダンボール (金津創作の森美術館)
- 2023年 ダンボール物語 (平塚市美術館)



玉田多紀のギャラリークルーズ

作家と一緒に展示室をめぐりながら、制作秘話や作品の見どころを紹介するトークイベントです！

9.23(土・祝) 14:00-15:00

集合場所：会場入口 ※申込不要・要入館券

玉田多紀のダンボールワークショップ

ダンボールでいきものをつくりまします！

9.24(日) 10:00-12:00

定員：20名 対象：5才以上

(ただし、10才未満は保護者同伴)

※事前予約(先着順)詳細はWebへ

受付期間：9月7日(木) 9:00～

お問合せ・TEL：06-6487-0806



音声ガイドあり | ご自身のスマートフォンで、会場内 QR コードにアクセスしてご視聴いただけます。※イヤホンをご持参ください。ご利用中の通信費はお客様のご負担となります。

玉田 多紀は、古紙ダンボールを制作の素材とする造形作家です。ダンボールの強度と柔軟性に魅了され、15 年以上にわたって制作を続けています。その手法は特徴的で、ダンボールをそのまま使うのではなく、水につけてパルプにまで還元することで粘土のように造形しています。恐竜・ライオン・オランウータン・クジラなど多様な生き物をモチーフに、巨大な体を支える固い芯材、凹凸のある表皮、羽・鱗の1枚まで、その全てがダンボールからできています。

近年は絶滅危惧種をテーマに制作発表するなど、現代社会の多様な問題に目を向けている玉田さん。その作品からは、私たちにさまざまな「物語」を感じさせます。

生き物の造形美に満ちた迫力あふれる立体作品が、ダイナミックに空間を構成します。玉田多紀のダンボールの生き物たちを、ぜひご覧ください！

作家のコメント

とりあえず 10 年続ければ何かしらの芽が出るだろう、幸いなことに仕事という形で生かしていただき、あれよあれよと15周年を迎えることになりました。作品を評価してくださる方や展示のオファーの度に、一つ席を空けていただいた。一歩進んだんだから頑張ろうと鼓舞しながら続けてきました。

時間だけはあった初期作品を始め、子育て経験から生まれた蓮太郎シリーズ、生涯メインテーマとなるであろう絶滅危惧種の新作まで、ほぼ全て見せます大展覧会となっております。作家の 15 年分をお楽しみいただくと幸いです。



祈り 2020年



誕生 2019年



ハハツヨシ 2015年



※画像は別会場の展示風景です

尼崎市総合文化センター 美術ホール(入口5階)

〒660-0881
尼崎市昭和通 2 丁目 7-16
TEL: 06-6487-0806
FAX: 06-6482-3503
<https://www.archaic.or.jp/>



- 阪神尼崎駅から北東に立体遊歩道で徒歩約5分(国道2号線沿い)
- JR 尼崎駅から阪神バス南側 4 番のりば [23] → 「尼崎総合文化センター」下車すぐ
- 阪急塚本駅から阪神バス(尼崎市市内線) [13] → 「昭和通」下車徒歩約 5 分 / 阪急バス [57] → 「尼崎総合文化センター」下車すぐ
- 有料駐車場あり(30分200円/1日最大1,000円・普通車)